

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成30年度第2回短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会議事録

I. 日 時 平成30年7月2日（月）17:30～19:30

場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 戸高委員長、後藤委員、三田委員、西岡委員
(事務局 井端事務局長、中村職員)

III. 検討事項

1. 「平成30年度短期大学教育改革 ICT 戦略」の全体討議について

- ① 若者の感性や情報発信力を地域の活性化・発展につなげる教育を探求することになり、「地域の発展に ICT で情報発信力を高めるにはどうすればよいか」として三田委員から課題提起を行い、それを踏まえて地域の発展につながる情報発信力を短期大学教育の中でどのように育成し、地域の貢献活動に繋げられるかなどの戦略を探求することを確認にした。
- ② その上で課題提起では、三田委員の大学が課外授業で取り組んでいる事例から、教室外の学修としてどのように学生の ICT 発信力を充実強化していくべきか、短期大学が連携する中で、地域貢献活動に不可欠な知識や情報をネット上のプラットフォームに持ち出して共有できる仕組みを提案することにした。
- ③ 例えば、地域活性化行事の広報に Web サイト作りや SNS を用いた方法、地域貢献活動を拡大するためにInstagramによる動画や写真を用いた紹介の方法、地域連携プロジェクトのためのホームページ作り、グーグルフォームによる参加募集の仕方、地域の連携先を掘り起こし、地域貢献活動を企画・調整するマネジメントの仕方、お年寄りの方とのコミュニケーションなどのノウハウを私情協のプラットフォームに集め、オンラインで学修できるようにする。
- ④ その際、できるだけ学生に呼び掛けて主体的に情報の提供やコンテンツづくりにかかわらせることにより、キャリア教育の実践として位置付けられる。教員がコンテンツを作る場合には、学生目線によるインタビュー方式で動画などを用いて作るようにしてはどうか。
なお、発信力として、メールの書き方などの文書表現は必要であるが、難しいのでコンテンツは用意しなくてもよいのではないか。大事なことは、若者が地域のために何ができるのかを考えさせ、情熱をもって行動できるようにすることを最優先することで、学生に自信を付けさせることを心掛けてはどうか。
- ⑤ 地域貢献活動は日常学修が過密なことに配慮して、夏休、冬休に集中して短期集中型で行わざるを得ない。したがって準備のための学修は、ネット上でコンテンツを自習し、教室の授業で知識・理解及び技能を修得できる情報環境の整備が必要となる。
- ⑥ 以上のように地域貢献活動に不可欠な知識や情報を共有する仕組みを構築する戦略として、本協会に地域貢献学修の短期大学共有プラットフォームを設けることに

ついて、ニーズを参加大学で確認するために、会議後に参加の短期大学にアンケートで打診することを提案することにした。ICT を駆使した地域貢献は学生に分かり易いし、学生による主体的な取り組みが期待できるので、有志の短期大学でコンソーシアムを形成する戦略について確かめることにした。なお、共有する学修コンテンツの収集方法は、本協会のプラットフォームに学修に必要となる項目を掲示し、短期大学が分担して地域貢献学修のコンソーシアムに参加できる仕組みの構築が不可欠となる。

- ⑦ 三田委員からの問題提起について、本日の意見を踏まえて改めてコンテンツを確認し、全体討議の進め方について合意形成することにした。

2. 短期大学会議の司会等運営担当者の確認について

司会及び機関誌執筆担当について以下の通りであることを再確認した。

① 司会

- | | |
|----------------|-------|
| ※ 開催趣旨の挨拶 | 戸高委員長 |
| ※ 進行・講演司会 | 岡本委員 |
| ※ 事例 1 と 2 の司会 | 西岡委員 |
| ※ 全体討議の司会・座長 | 戸高委員長 |

② 機関誌原稿担当

- | | |
|--------------|------|
| ※ 講演 | 岡本委員 |
| ※ 事例 1 と事例 2 | 西岡委員 |
| ※ 全体討議 | 三田委員 |

3. 今後のスケジュールについて

次回は7月27日（金）か30日（月）を候補日とした。

その後、委員全員に諮った結果、7月27日（金）午後4時より私情協事務局において第3回運営委員会を開催し、全体討議の運営を中心に検討することとした。